

Title	執筆者紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	2014
Jtitle	哲學 No.132 (2014. 3) ,p.367- 371
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集：論集 美学・芸術学： 美・芸術・感性をめぐる知のスパイラル(旋回)
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000132-0367">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000132-0367</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

**執筆者紹介**（氏名・所属・（専門領域）・主要業績）

**佐々木健一**（ささき・けんいち）

東京大学名誉教授（美学）

『ディドロ《絵画論》の研究』中央公論美術出版，2013年

『日本の感性——触覚とずらしの構造』中公新書，2010年

『タイトルの魔力——作品・人名・商品のなまえ学』中公新書，2001年

『フランスを中心とする18世紀美学史の研究——ウォーターからモーツァルトへ』岩波書店，1999年

『美学辞典』東京大学出版会，1995年

**藤田一美**（ふじた・かずよし）

東京大学名誉教授（西洋古典近現代哲学・美学・中国日本思想）

『藝術の存在論——世界述語としての藝術存在』多賀出版，1995年

「啓蒙思想における〈為国家之用〉の論理——西周の啓蒙哲学における美学思想」1・2（東京大学美学藝術学研究室『研究』22・23号，2005-2006年，所収）

「詩論の系譜（一）——プラトンとアリストテレスにおける虚構・美・型・模倣・共感の問題」（東京大学美学藝術学研究室『研究』25号，2007年，所収）

「詩作術の正当性と詩学の位置」（『ギリシャ哲学セミナー論集』VII，2010年，所収）

「ディオニュソス的なるものの変貌——藝術衝動から哲学概念へ」1・2（日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻『藝文攷』2013・2014，所収）

**西村清和**（にしむら・きよかず）

國學院大学文学部教授・東京大学名誉教授（美学・芸術学）

『遊びの現象学』勁草書房，1989年

『フィクションの美学』勁草書房，1993年

『現代アートの哲学』産業図書，1995年

『イメージの修辞学』三元社，2009年

『プラスチックの木でなにが悪いのか』勁草書房，2011年

## 執筆者紹介

### 尼ヶ崎彬 (あまがさき・あきら)

学習院女子大学教授 (美学・芸術学・舞踊美学)

『花鳥の使——歌の道の詩学』勁草書房 1983年

『日本のレトリック』筑摩書房, 1988年 (ちくま学芸文庫, 1994年)

『ことばと身体』勁草書房, 1990年

『緑の美学——歌の道の詩学Ⅱ』勁草書房, 1995年

『近代詩の誕生——軍歌と恋歌』大修館書店, 2011年

### 松尾 大 (まつお・ひろし)

東京藝術大学美術学部教授 (美学)

〔翻訳〕バウムガルテン『美学』玉川大学出版部, 1987年

「フィギュールの翻訳を規定する要因」(『東京藝術大学美術学部紀要』39号, 2003年, 所収)

『レトリック事典』(佐藤信夫・佐々木健一と共著)大修館書店, 2006年

「視覚的記号の関わるフィギュール」(『東京藝術大学美術学部紀要』44号, 2006年, 所収)

「修辞学としてのレトリック——美学からのアプローチ」(菅野盾樹編『レトリック論を学ぶ人のために』世界思想社, 2007年, 所収)

### 大石昌史 (おおいし・まさし)

慶應義塾大学文学部教授 (哲学・美学・芸術学)

「美学と形而上学との間——ヘーゲル以後の存在論的美学の可能性」(三田芸術学会編『芸術学』6号, 2003年, 所収)

「芸術の再定義——物と事とが交錯する創造の出来事」(前田富士男編『伝統と象徴——美術史のマトリックス』沖積舎, 2003年, 所収)

「遊戯における芸術作品の現実性について」(美学会編『美学』213号, 2003年, 所収)

「余情の美学——和歌における心・詞・姿の連関」(三田哲学会編『哲学』118集, 2007年, 所収)

“The Logic of Imagination: Dialectics of Objectification and Signification.” in

*CARLS Series of Advanced Study of Logic and Sensibility*, Vol. 5 (2011), Keio University Press, Centre for Advanced Study of Logic and Sensibility, The Global COE Program, Keio University, 2012.

**白原由起子**（しらはら・ゆきこ）

根津美術館学芸部第一課長（日本仏教絵画史）

「〈伏見稲荷曼陀羅〉考——個人本〈吃枳尼天曼荼羅〉に対する異見」（『MUSEUM』560号, 1999年, 所収）

“The Fuji Pilgrimage Mandala: Mount Fuji Worship and Its Associated Imagery in the Sixteenth Century”（河合正朝教授還暦記念論文集『日本美術の空間と形式』二玄社, 2003年, 所収）

「春日宮曼荼羅——図様の諸相と展開」（根津美術館学芸部編『春日の風景——麗しき聖地のイメージ』2011年, 所収）

「根津美術館所蔵春日宮曼荼羅考——図様の成立と制作時期」（林温編『日本仏教美術論集1 様式論——スタイルとモードの分析』竹林舎, 2012年, 所収）

「法隆寺所蔵春日宮曼荼羅考——春日宮曼荼羅の図様展開に関する試論」（『根津美術館研究紀要 此君』4号, 2013年, 所収）

**西木政統**（にしき・まさのり）

慶應義塾大学大学院文学研究科助教〔博士課程学生〕（仏教美術史）

「獅子窟寺蔵薬師如来坐像に関する一考察」（三田芸術学会編『芸術学』15号, 2012年, 所収）

「江戸川区東善寺蔵薬師如来坐像の図像学的視点について——印相と頭髮表現を中心に」（江戸川区教育委員会『江戸川区の仏像・仏画』2, 2013年, 所収）

**望月典子**（もちづき・のりこ）

慶應義塾大学文学部非常勤講師（西洋美術史・17世紀フランス美術）

『ニコラ・プッサン——絵画的比喩を読む』慶應義塾大学出版会, 2010年

「ニコラ・プッサン作《パッコスの勝利》と《パンの勝利》——リシュリュール城「王

## 執筆者紹介

の陳列室（キャビネ）」の装飾における意味について」（美術史学会編『美術史』160号，2006年，所収）

「17世紀パリにおける「好事家（キユリユー）」たちの絵画への眼差し」（遠山公一・金山弘昌編『美術コレクションを読む』慶應義塾大学出版会，2012年，所収）

「「技芸が自然を助ける（Ars naturam adiuvens）」——ニコラ・プッサン《エリエゼルとリベカ》（1648年，ルーヴル美術館）」（大野芳材編『フランス近世美術叢書 II 絵画と受容』ありな書房，2014年，所収）

“Mars et Vénus de Nicolas Poussin: Sa réception de l’art antique et de la poétique de Marino.” in *17e siècle*, no. 255, Presses Universitaires de France, 2012.

### 加藤有希子（かとう・ゆきこ）

埼玉大学教育機構教育企画室准教授（近現代美術史・表象文化論・色彩論）

『新印象派のプラグマティズム——労働・衛生・医療』三元社，2012年

「ミクロコスモスとしての色彩環——ドロネーとグレーズによる1930年代壁画制作原理」（美学会編『美学』214号，2003年，所収）

「キュビズムと色彩——もうひとつの物語」（前田富士男監修『色彩からみる近代美術』三元社，2013年，所収）

「芸術は生存に関われるか——エネルギー論からみるアート」（『生存学』5号，生活書院，2012年，所収）

### 池上健一郎（いけがみ・けんいちろう）

慶應義塾大学文学部非常勤講師（西洋音楽史・音楽学）

[Dissertation] *Siciliano in der Instrumentalmusik Joseph Haydns und seiner Zeitgenossen: Untersuchungen zur kompositorischen Auseinandersetzung mit dem Topos im klassischen Stil*, Universität Würzburg, 2013.

「ブルックナーの交響曲における『漸次的結合の構想』と総休止」（日本音楽学会編『音楽学』第51巻3号，2005年，所収）

「『おお巨匠よ，貴方を崇拝しています』？ ——ブルックナーの《ワーグナー交響曲》」（日本ワーグナー協会編『年刊ワーグナー・フォーラム2006』東海大学出

版会, 2006年, 所収)

“Möglichkeiten und Unmöglichkeiten der musikalischen Analyse——Am Beispiel von Beethovens Fünfter Symphonie.” in *2. Deutsch-japanisch-koreanisches Stipendiatenseminar (9. Treffen von DAAD-Stipendiaten), 10. und 11. Juli 2008* (=Veröffentlichungen des Japanisch-Deutschen Zentrums Berlin 58).

**篠田大基** (しのだ・ひろき)

水戸芸術館音楽部門学芸員 (20世紀音楽)

「スティーヴ・ライヒ「漸進的プロセスとしての音楽」諸ヴァージョンの比較——電子音楽からの離脱の軌跡」(慶應義塾大学三田芸術学会編『芸術学』12号, 2008年, 所収)

「スティーヴ・ライヒの「プロセスとしての音楽」——ポストミニマリズム美術との連関」(美学会編『美学』235号, 2009年, 所収)

「1920年麻布飯倉のベートーヴェン——南葵楽堂「ベートーヴェン生誕百五十年記念音楽会」の意義」(慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構『Oxalis——音楽資料デジタル・アーカイヴィング研究』3号, 2010年, 所収)

“Steve Reich’s ‘Musical Process’: A Linkage with Postminimal Art.” in *Aesthetics*, no. 16, The Japanese Society for Aesthetics, 2012.